

1 第4学年部会

(1) 研究発表 【宮崎市立清武小学校 指導教諭 三角友香】

(質疑応答・協議について)

- 資料を読み取る力と資料と資料から分かる事実を関連付ける力を身に付けさせるための取組がなされていた。

(指導助言) 【県教育庁義務教育課 指導主事 田中義栄】

- 地域素材を教材化することが大切である。より身近な教材であるため、時間や空間の広がり、人のかかわりの広がりの中で学習をすることができる。
- 「なぜ」疑問を基にすることが大切である。単元を通して、1時間ごとにまとめたことを基に単元の学習をまとめていくことができる。
- 板書のチョークの色を分けることや自分の意見をまとめる時間を確保することで、表現力の育成につながっている。
- ICTを活用することで、考えを「可視化」「共有化」「焦点化」することができる。
- 評価については、自己評価と教師の評価とのズレを分析することで、子どもの実態をつかむ必要がある。それを、次の手立てに生かしていくとよい。

2 第5学年部会

(1) 研究発表① 【新富町立上新田小学校 教諭 中原英之】

(質疑応答・協議について)

- Q1 まとめさせる際に、キーワードを示して児童に書かせているが、キーワードの示し方はどのように行ったか。
- A1 児童からの考えを基にしながらも、めあてとまとめの整合性を考え、事前に自分で考えたものを示すようにした。児童に身に付けさせる知識を意図的にキーワードとして示すようにした。
- Q2 日々の授業を実践していく中で工夫していることはどのようなことか。
- A2 板書計画ノートを作成し、授業に臨むようにしてきた。事前の板書計画ノートと実際の授業での板書を比較することで、振り返ることができ、次の授業実践に生かすことができる。
- Q3 タブレットは、日頃の授業でどのように活用しているか。
- A3 主に資料提示に使っているが、大変効果的である。加工した資料などを準備して提示したり、配信したりするのに大変便利である。児童がまとめたノートを写真に撮らせ、提出させることで、児童の学習状況を把握することで、事後の指導に生かすことができる。

(2) 研究発表② 【延岡市立東小学校 教諭 那須真衣子】

(質疑応答・協議について)

- Q1 思考力を高める手立てとして、地域資料を提示した際の児童の反応や変化はどうであったか。
- A1 自分たちに身近な事象を提示することで、児童は驚きの声をあげ、意欲的に学習に取り組むようになった。また、直接、児童が自ら休日等を利用して実際に出かけてみる児童の姿も見られた。
- Q2 資料提示のその他の具体的な実践について教えてほしい。
- A2 米作りの学習では、地域で作っているブレンド米9種類の袋を提示することで、学習問題づくりにつながった。
- Q3 ねらい通りにまとめに向かわない場合に、どのような手立てをとったか。

A3 自分で取り組める児童については、ロイロノートのテキストに視点を示したものを作成し、自分でまとめることが困難な児童に対しては、一部を穴埋めにしたテキストを作成し、タブレットに送信した。

まとめを行う際には、学習問題に立ち返り、何についてまとめるのかを確認をしてから、まとめさせるようにした。

学習内容によっては、教師主導でまとめを行うことがあってもよいと考える。

（指導助言） 【中部教育事務所 指導主事 馬原祐介】

- 思考・判断・表現力の育成が大切になっており、その能力は問題解決の過程で相互関連させながら育成していく必要がある。
- 授業の中で、話し合いながら納得解、最適解を導き出す学習が必要である。
- 思考力・判断力を育成する上で、児童の頭の中の状況を把握するためには、児童に説明させたり、論述させたりしながら指導していく必要がある。
- 教師自身が児童に何を身に付けさせるのか、どこを目指すのかを明確にしておく必要がある。
- 比較、分類、関連付け、順序立て、焦点化などの思考スキルを意識して、思考させることが大切である。
- 思考ツールに関する映像が「NHK for School」で紹介されているので、活用するとよい。
- 「how」、「why」、「which」など身に付けさせたい力に合わせて、思考を促す問いを準備し視点を明確にして考えさせていく必要がある。

3 第6学年部会

(1) 研究発表① 【都城市立祝吉小学校 教諭 大崎美穂】

(質疑応答・協議について)

Q1 子どもたちからキーワードを引き出すことや、キーワードからまとめの文を作るためにどのような手立てをとったのか。

A1 教師から「今日のキーワードは？」と問うと、意見がたくさん出てきた。クラスの中にこれがキーワードではないかという鋭い勘をもっている児童がいた。

まとめの文を作るための手立てとして、「～鎌倉幕府」など体言止めで作ったり、25字の字数制限をしたりした。

重要だと思うキーワードを○で囲むなどして、自分でキーワードの取捨選択ができるように練習を重ねた。

国語でも日頃から要約練習に取り組ませてきた。

Q2 タブレットでの調べ学習では、子どもたちが参照したサイトは信頼性のあるものなのか。

A2 都城市のタブレットの活用の仕方として、まずはどんどん調べてみようというものがある。教師が確認する限りでは、子どもたちは信頼性のあるサイトを調べているようだった。

教師からJamboardでここを見てみようとか、検索キーワードにこの言葉を入れてみよう伝えることもあった。

(2) 研究発表② 【椎葉村立椎葉小学校 教諭 山田愛】

(質疑応答・協議について)

Q1 「社会科学学習の手引(研修会資料P26)」は、普段どのように活用されていたか。

A1 指導者と学習者の中でルーティンを作ることを心掛けていた。例えば、

- ・ 資料を提示する場面は、1時間の中で、ここだと決めていた。
- ・ 「調べる」の過程では、毎回問題設定を2つとした。3つだと多すぎてしまう。特に深く詳しく考えたいときは、問題設定を1つにした。

A2 1単位時間の終末に、例えばまとめて3時間をとるのではなく、毎時間の中で学習したことを少しずつ整理して書き込ませるようにした。

(指導助言) 【県教育研修センター 指導主事 久野智章】

- 教科書に書かれた内容が、地域環境と乖離していることがある。地域教材をうまく活用し、子どもたちが自分ごととして追及し、自分の言葉でしっかりと表現できることが重要である。つまり、次の2つの視点をもつことが大切である。
 1. 地域教材を使って、いかに子どもたちの身近なものになるかという「問い」
 2. 十分に話し合い、子どもたちの言葉を使ってまとめる「吟味」
- 山田教諭の実践は、時間と場所の経過と事実がしっかり練られていた。江戸時代と明治時代の2つの絵は、同じ場所の比較であったので、子どもたちにとって比べやすいものだった。建物や服装など、多角的な視点で比べることができるものだった。
- 魅力のある授業とは、「白熱した授業、ストーリー性のある授業」「生で見たり聞いたりができる授業」「単元を見通した授業が成立した授業」である。特に社会科の歴史を扱うときには、これが無かったらどうなっていたかを考えさせるのも面白い。